

市立病院等の医療提供体制のあり方に関する検討会 開催目的等

1 開催目的

北九州市における市立病院等の医療提供体制のあり方に関して、広く有識者から意見を聴取すること。

2 検討事項

(1) 医療センターの建て替えに関すること

医療センターについては、建築後30年以上を経過し著しく老朽化していることから、第2期中期目標において、「建て替えを含め広く検討すること」としている。

建て替えに当たっては、今後10年程度かかる可能性があるほか、完成後も30年以上活用していくことを前提にする必要がある。

今後の市の医療需要を踏まえ、近隣病院との役割分担を考慮した上で、将来的な医療センターの機能・規模に関して議論する必要がある。

(2) 小児救急を含む救急医療体制に関すること

救急医療体制については、令和6年4月からスタートした医師の働き方改革の影響が懸念されている。特に小児救急は、小児科医の全国的な減少傾向もあり、小児救急を担う八幡病院等のひっ迫や、夜間・休日急患センター等の出務医師の確保が困難な状況も生じている。

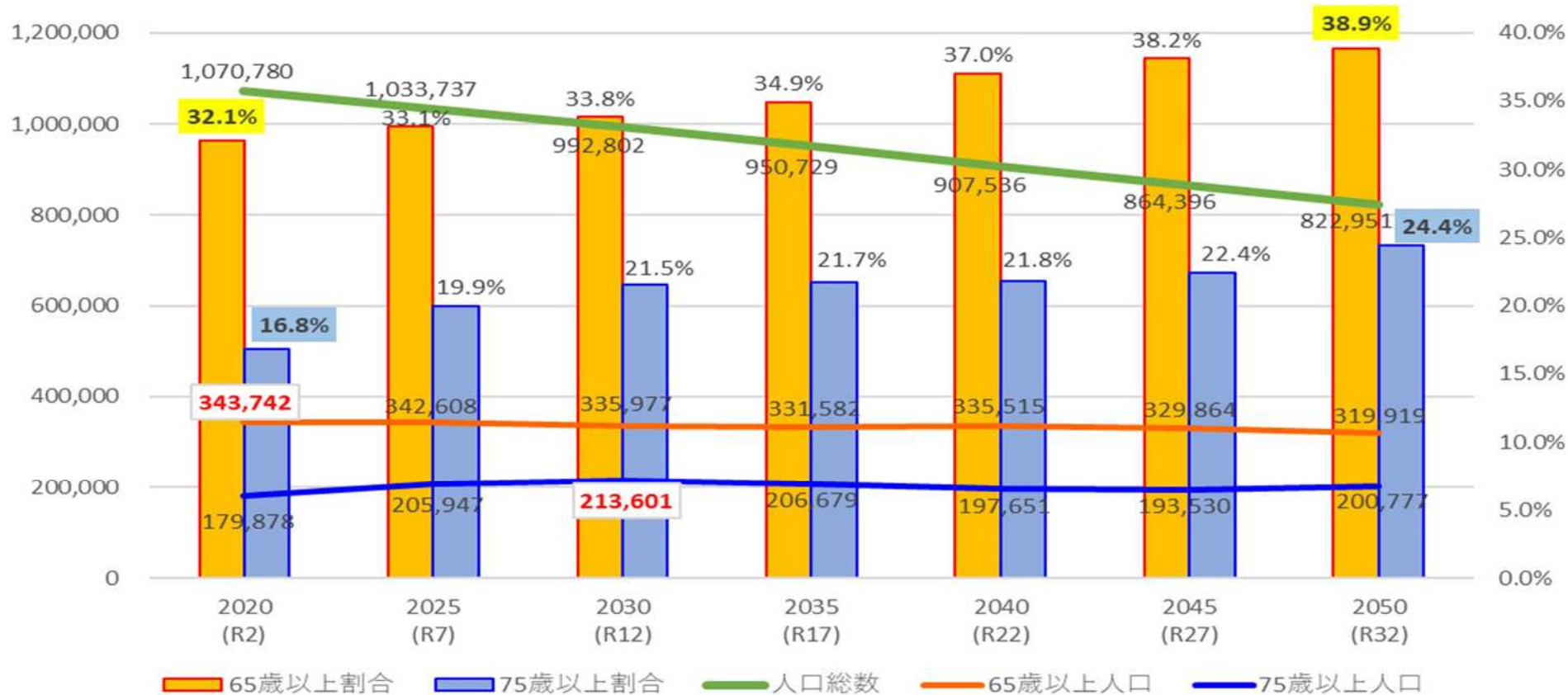
なお、本市医師会からは、今後の体制づくりに向け、早急に検討を始めるべきとの要請があっている。

3 開催スケジュール(予定)

開 催	時 期	議 題
第1回	R6.11	市の地域医療の現状、市の政策医療、市立病院機構の概要
第2回	R6.12	医療センターに求められる役割(担うべき政策医療:周産期母子医療・感染症医療)、役割を果たすために必要な機能(診療科など)
第3回	R7.4	医療センターの施設・設備における現状と課題
第4回	R7.5	医療センターの役割・機能・経営面を踏まえた病院規模と施設のあり方
第5回	R7.7	中間とりまとめ
第6回以降		本市の救急医療体制、八幡病院等の救急医療体制 最終とりまとめ

1 北九州市の地域医療の現状① ※第1回検討会資料P4の時点更新

○北九州区域（北九州市、中間市、遠賀4町）の人口及び高齢者の推移



65歳以上割合・75歳以上割合は人口÷人口総数で算出

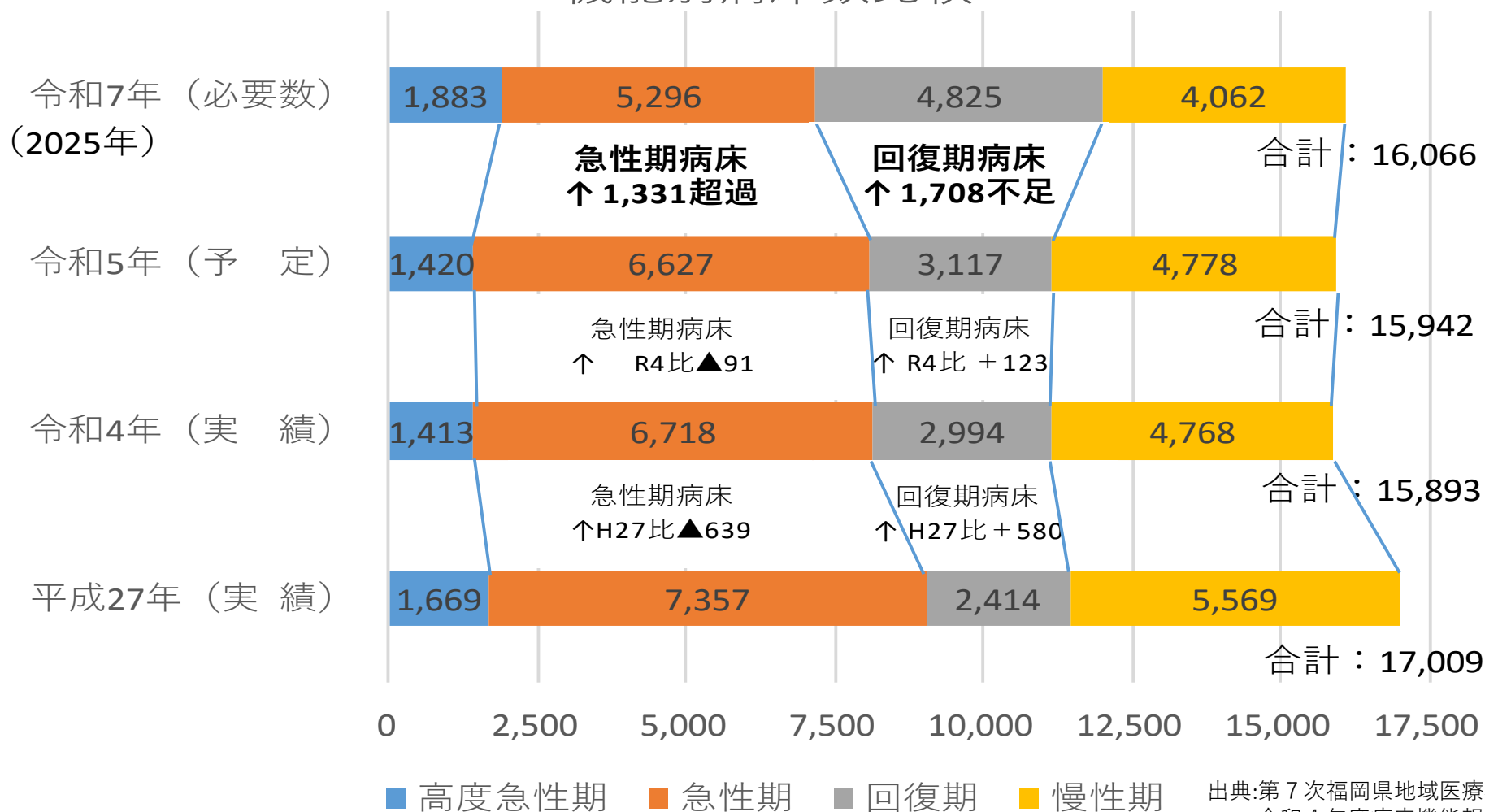
出典:国立社会保障・人口問題研究所（令和5年12月）

- ・総人口は年々減少
- ・高齢者(65歳以上)人口は、2020年をピークに減少、割合は年々増加
- ・後期高齢者(75歳以上)人口は、2030年をピークに減少、割合は年々増加

1 北九州市の地域医療の現状④ ※第1回検討会資料P7の時点更新

○北九州区域の地域医療概況

機能別病床数比較



・ 急性期と慢性期が超過、回復期が不足